

情報連絡員報告・1月分

製造業の「売上高」と非製造業の「業界の景況」DIが大幅に悪化

< 東京都中央会 >

1月の情報連絡員報告によると、好転を続けていた製造業の売上高が一転して大幅に悪化（約17ポイント）した。また、非製造業の業界の景況のDI（前年同月比）値が大幅に悪化（約15ポイント）した。収益状況は製造業、非製造業ともに若干だが連続しての悪化となった。

「業界の声」からは昨年に引き続き、改正建築基準法の影響と原油価格高騰に伴う原材料等の値上げによる収益の圧迫に苦しむ中小企業の現状が報告された。また、古紙混入率の偽装問題への対応とその影響を懸念する声もよせられた。

製造業64人、非製造業86人、計150人の集計

各項目のDIの動き（前月比）（ ↗ 好転 → 不変 ↘ 悪化 ）

	売上高	DI	在庫数量	DI	販売価格	DI	取引条件	DI		
全体	↘	-38.0	↗	-4.8	→	-2.0	↘	-24.7		
製造業	↘	-29.7	↘	-6.3	↘	-4.7	↘	-23.4		
非製造業	↘	-44.2	↗	-3.3	↗	0.0	↘	-25.6		
	収益状況	DI	資金繰り	DI	設備操業度	DI	雇用人員	DI	業界の景況	DI
全体	↘	-52.7	↘	-36.7	↘	-20.3	↘	-16.0	↘	-49.3
製造業	↘	-48.4	↘	-39.1	↘	-20.3	↘	-14.1	↗	-37.6
非製造業	↘	-55.8	↘	-34.9	↘	-17.4	↘	-58.1		

業界の声 (平成20年1月分)

【製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	中華麺製造業	原料の価格上昇がとまらない。一部の原料メーカーの市場撤退により代替品を捜している。また、価格のタイト感がある。
	製粉業	来年度の原料小麦の政府売り渡し価格の大幅な引き上げが確実な状況下で、製粉会社は迅速な小麦価格への転嫁をしていくしかない。これからも厳しい環境が続きそうだ。
繊維・同製品	織物製外衣・シャツ製造業	生産量は全体的に低下気味。工場受注は集中と減少の2極化
	帆布製品製造業	1～2月でほとんどの取扱い商品が値上げになったことにより、値上げ前に主力商品の在庫を確保した。販売価格においても今回は値上げせざるをえない状況。
	帽子製造業	1月は寒い日が続き、防寒関係の帽子は順調に推移している。相変わらずニット帽子が好調。
木材・木製品	建具製造業	確実に仕事量は減少し、経営は悪化している。昨年12月までは何とか乗り切ってきたが、建築基準法の改正による確認申請遅延の影響が住宅着工戸数の減少を如実に表している。
出版・印刷	印刷業	先月、発生した製紙メーカーによる古紙混入率偽装問題が印刷需要に影響しないか、心配である。
化学・ゴム	塗料製造業	改正建築基準法の影響が建築、資材、機械等の分野にわたりでであり、全体的に荷動きがよくない。船舶は好調だが、家庭用、木工等の分野では厳しい状況。原料価格の更なる上昇は予想されるが、製品の価格改訂が追いつかない。
	プラスチック製品製造業	原材料等のコストアップを製品価格に転嫁しようと要望するが、足まみが揃わず、実施は容易ではない。
窯業・土石製品	コンクリート製造業	改正建築基準法の影響はさらに深刻化し、出荷量は対前年比で2割を下回った。
	コンクリート製品製造業	セメント、鉄筋、A重油等の原材料が相次いで大幅に値上げされ、コストアップに苦慮している。製品への転嫁が進まず、転廃業や倒産する同業者が相次いでいる。このまま推移するとゼネコンに連鎖しての倒産が懸念される。
鉄鋼・金属	電気めっき業	年初から仕事量が落ち込んでいる。資金繰りが悪化して倒産が懸念される事業所がある。銀行の土地担保評価も土壌汚染の懸念により見直しがされており、資金繰りが一層困難になる。
	鋳物製造業	昨年の秋以降、受注の動きが悪く、原材料・副資材の一部に再度の値上げ傾向が目立っており、経営に苦しんでいる。
	電線製造業	1月の需要は通信用、建設用の需要が減ったものの、電力用、電気機械用、自動車用の需要が増えたので、全体で増加となった。
	ねじ類製造業	業界の動向は総体的に横ばいであるが、原油の高騰による原材料価格の値上り分の製品価格転嫁状況により企業によって明暗まだら模様である。実情であり、製品価格は正への努力が引き続き必要である。
一般機器	写真機製造業	新年をむかえ、組合の事業は昨年より低調だが、業界全体ではインキ等の出荷量は増加してきている。
電気機器	配電盤製造業	業績にバラツキがあるが、総じて堅調。需要も堅調で、従前にみられた安値引き受けは影をひそめている。ただし、景気動向により今後の見通し不透明感が顔を持ち上げているほか、部品調達先からの値上げ要請もあり、先行きに不安感も。

業界の声 (平成20年1月分)

【製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
その他製造	紙製品製造業	二次加工メーカーである組合員は、偽装された再生紙を原材料とした品目を生産中止とした。そのため、流通在庫品への対応に追われている状況。
	スポーツ用品製造業	業界は景気の変動の影響を敏感に受けており、原材料の値上げ、製造コストの上昇、消費低迷により先行き不透明感が強くなっている。北京オリンピックが業界の活性化につながることを期待している。
	鉛筆製造業	昨年と比べて、新学期向けの需要が少し前倒しされていたようで、今月に関しては生産・販売とも減少している。
	ガス圧接業	稼働率の落ち込みが40～80%と激しい。今後、建築の確認申請が降りてくることがわかって、この状態が続けば、資金繰りが悪化する。

業界の声 (平成20年1月分)

【非製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸売業	理容用品卸売業	原油高騰が物流経費にはね返り、問屋メーカーからの仕入れも、その数量により送料が付加されるなど、販売商品の値上げを余儀なくされているが、価格転嫁は至難のわざであり、経費高騰分をどこの段階で、どうやって吸収するか、今後の大きな課題である。
	洋紙卸売業	古紙配合率問題で売上は伸び悩み。業界では「再生紙＝環境によい」としてきたが、作業工程中に大量の二酸化炭素が発生する等、環境に良くないこともあり、切り替えが必要と思われる。
	電線卸売業	前月に引き続き、工事中電線の荷動きが鈍く、市況としては伸び悩んでいる状況。建築物の着工許可の遅れがボディーブローとなっている。
	織物卸売業	最近の経済環境の悪化、消費意欲の減退傾向、原油価格の急騰等により組合員の経営状況は悪化し、深刻度を増している。生産・流通・販売の自社一貫体制が進みつつあり、卸業界の再編が促進される傾向が顕著にみられる。
	木材卸売業	販売量・仕入量ともに減少。正月休みが長いこともあり、年明けの荷動きはそこそこあったが、今後は不透明。
	電設資材卸売業	着工件数の激減が月を追って、売上減少につながっている。今後、さらに拡大するものと思われる。
	玩具卸売業	1月になり、やや持ち直し、全体的に前年並みとなった。この要因は特に見あらず、前年同月実績がほぼ底をついたものと推察される。今後の動向が注目される。
小売業	木材小売業	建築基準法改正の影響が残り、景気の後退も感じられる。前年は好調な出だしであったが、それと比べるとかなりの落ち込みとなっている。春先の需要がどうなるか、全く不透明である。
	野菜・果実小売業	昨年秋より野菜の価格が低迷していたが、寒さが本番を迎え、ハウスもののトマト、きゅうり、なすの生長が遅れたため、価格が急に上がり、利益が出せなくなりました。現在は二次加工品（白菜漬物等）で利益を補っている。
	酒類小売業	コンビニエンスストア、スーパーが酒類を扱うようになり、一般小売店の経営が悪化して廃業する組合員が増加。ここ2、3年で年間400～500名の組合員が廃業・退会している。

業界の声 (平成20年1月分)

【非製造業】

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
小売業	豆腐小売業	昨年1年間で都内の町店が83件廃業した。原因は原材料の高騰や後継者不足。適正な収益を確保して、後継人材を育てる義務を感じる。組合の空いている倉庫を利用して学校を造り、業界の活性化を図りたい。
	包装材料小売業	一段落したかに見えた組合員の減少傾向が、また増加しつつある。新年度に要求される予定の年会費等が惜しいとの声がある。
	化粧品小売業	年末から年始にかけて、各組合員店の売上が減少した。スーパー、量販店に客が流れている。商店街も都心とその周辺の格差が拡大している。
	古書籍小売業	最近インターネット専門で組合に加入する人が多いが、ほとんどは店舗を持たない自宅営業である。その結果、組合員は増えても、組合運営に参画しない、関心もない、ただ組合を利用するのみで、組合の将来にとってあまり良い方向へ向かっていない。
	二輪自動車小売業	昨年の二輪車の新車国内販売状況は、前年に比べ微減の年間73万台にとどまった。近年、業界にとって明るい話題が続いていたが、06年6月からの駐車違反取り締り強化は大きな痛手となった。
	電気機械器具小売業	年明けに初売り等を実施するも、月半ばまでは苦戦。後半は品切れ商品の入荷により、売上高は前年並みまで盛り返すことができた。テレビ、冷蔵庫、調理機器は前年を割り込んだが、パソコン、クリーナー、エアコンは微増し、DVD機器はほぼ倍増。
商店街	秋葉原	春のフレッシュマン需要が前倒しになり、中旬から各店舗がにぎわっている。
サービス業	飲食業	新年会が減少し、商品単価も減少。外食離れが続いている。
	洗濯業	ドライ溶剤、ポリ包装資材、合成洗剤等、クリーニング業界は石油関連製品に依存している。価格転嫁もやむをえないか。
運送業	貨物自動車運送業	ここに来て、荷動きも若干減少傾向にある。組合員の収支並びに資金繰り状況はさらに悪化しつつあり、今月も1社倒産した。長く、細く、暗いトンネルに入り込んだような状況にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
繊維・同製品	帆布製品製造業	第3次オイルショックといえるような状況になってきている。行政の強力な指導により、経済を安定させてほしい。また、特別減税を検討してほしい。
鉄鋼・金属	電気めっき業	工場隣接地を汚染した事による係争が発生しており、行政の適切な指導をお願いしたい。
卸売業	建設用金属製品製造業	消費を活性化させる政策をお願いしたい。
	電設資材卸売業	改正建築基準法の適切な運用を切望する。昨年7月以降の着工激減はどうみても異常である。
小売業	野菜・果実小売業	重油を使用した日本のビニールハウス農業に対して、何らかの別の型(ソーラシステムや風力)で行えるよう、研究してほしい。
サービス業	複写業	リサイクルマークの表示方法、基準値を正確にしてほしい。
運輸業	貨物自動車運送業	燃料価格の高騰・高止まりに対して何らかの政策をうってほしい。